

拝啓

錦秋の候、施設長様はじめ睦沢の里の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

3年半にわたり、母が大変お世話になり、また睦沢の里で安らかな最後を迎えることができましたことに心からお礼申し上げます。

睦沢の里に入所以来、皆様の心温まるケアのおかげで、母は寂しい思いをすることなく、清潔で快適な環境で、おいしい食事を食べることができました。

また、たくさんの方に囲まれ、誕生日を祝われ、数々のアクティビティに参加したり、リハビリを受けることで希望も捨てることなく、楽しい日々を過ごすことができました。

本来、介護老人保健施設は終の棲家ではないということも理解したうえで入所したにも関わらず、最後は終末介護まで受けることができ、我々家族だけでなくたくさんの方々に見送られて旅立った母は本当に幸せ者だったと思います。

葬儀社の方が迎えにきたときに、当然裏口から出て行くものだと思っておりましたが、施設の皆様だけでなく、入所者の方々の目の前を通り、玄関から車に乗せられた時には涙が出るほど感激いたしました。

入所者の中には車椅子の上で手を合わせてくださる人までいて、家族としてこれ以上うれしいことはありません。

人の死を忌まわしいものと考えず、最期まで人の尊厳と向き合う、皆様の温かく強い意思を感じました。

本来であれば、家族が介護し、最期を看取るのが理想であり、母の願いであったかもしれませぬ。

しかし、実際、家族ができること以上のケアをしていただいたことを思えば、やはり睦沢の里にお世話になったことが母にとって最良の選択であったと信じております。

最後まで母に温かい言葉をかけ続けていただいた介護の皆さん、看護の皆さん、リハビリの先生方、ケアマネージャーの皆様、そして最後まで母と私たち家族に寄り添って応援いただきました更科先生に心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

皆様方の健康と、ますますのご発展を心から祈っております。

平成25年10月

睦沢の里 施設長 更科 廣 實 様

